

三井化学
臨時
経営概況説明会

2014年2月6日
三井化学株式会社
社長 田中 稔一

**本日、発表します大型3事業の再構築は
成長性と永続性を確実にする事業ポートフォリオ
変革のための施策であり、次なる飛躍への重要な
足固めとなります。**

**断固たる決意を持って、諸対策を実行し、
今後のV字回復に向けて全力で邁進して参ります。**

- 1. 2013年度3Q決算と見通し**
- 2. 大型市況製品の再構築策**
- 3. V字回復に向けて**
- 4. さいごに**

3Q決算と年度見通し

営業利益予想は、前回発表と変わらず

(単位:億円)

摘要	12年度決算		13年度予想		13年度予想 (13.11.1発表)
	4-12月	年度	4-12月決算	年度	年度
売上高	10,074	14,062	11,088	15,700	15,500
営業利益	25	43	151	250	250
営業外損益	△ 11	49	△ 10	△ 40	△ 40
経常利益	14	92	141	210	210
特別損益	△ 53	△ 100	△ 229	△ 320	△ 70
税金等調整前 当期純利益	△ 39	△ 8	△ 88	△ 110	140
当期純利益	△ 97	△ 81	△ 185	△ 230	10
為替レート(円/\$)	80	83	99	100	99
国産ナフサ(円/KL)	55,400	57,500	65,700	67,300	64,900

特別損失と配当

1)特別損失

- ・大型市況製品の再構築のため、来期以降実行する施策も含め、今期に特別損失320億円計上

2)配当

- ・中間配当は3円/株実施したが、13年度期末は無配とさせていただきます
- ・今後のV字回復へ向けた施策に経営資源を集中
- ・役員賞与返上、月例報酬減額(▲12~20%)

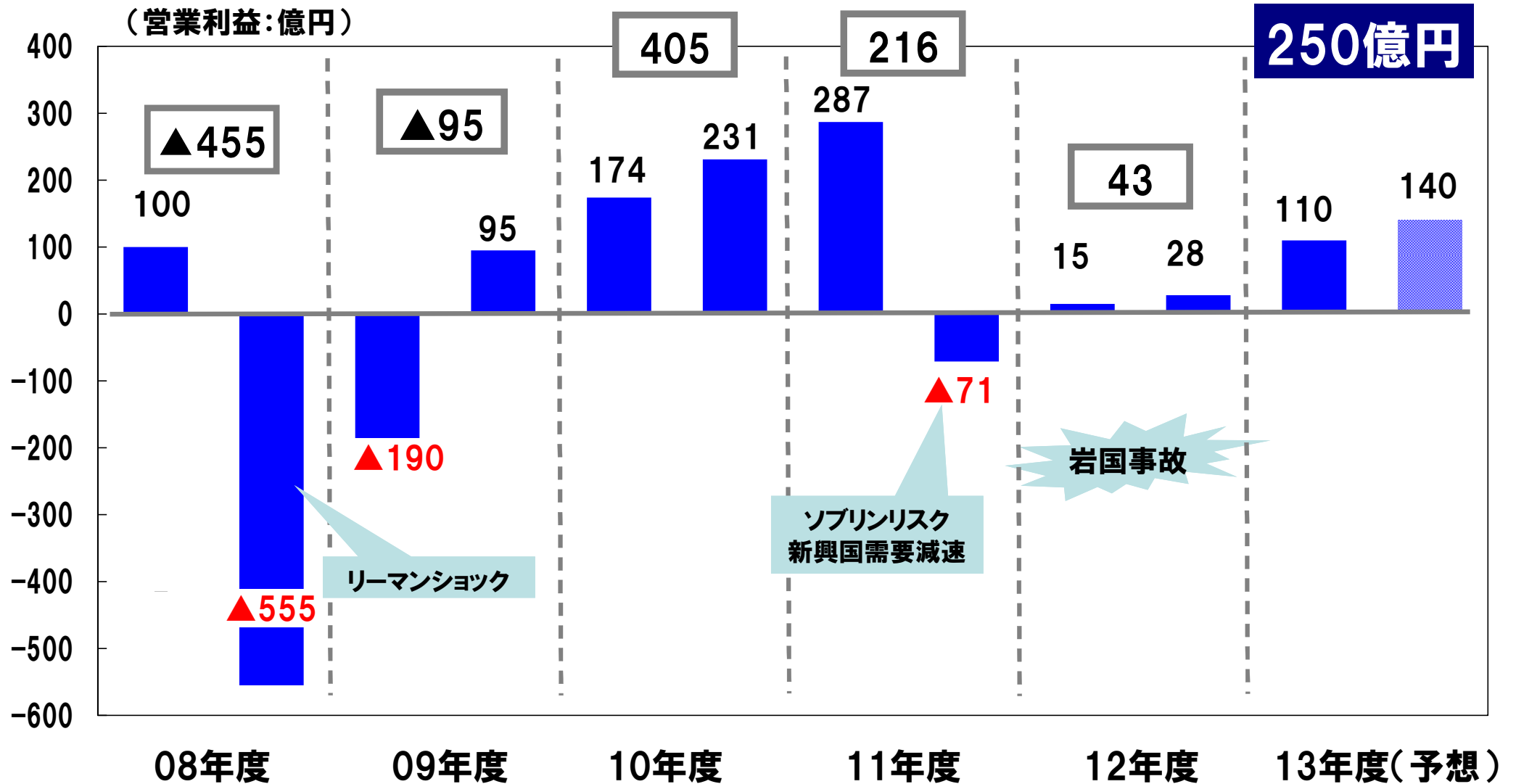
**事業再構築を大胆に推進し、成長軌道に乗せることで、
14年度期末には復配を目指す**

セグメント別営業損益

(単位:億円)

セグメント	12年度決算		13年度予想		増減 (B) - (A)	13年度予想 (13.11.1発表)
	4-12月	年度 (A)	4-12月決算	年度 (B)		年度
機能化学品	95	124	121	165	41	165
機能樹脂	66	84	93	130	46	130
ウレタン	△18	△26	△48	△40	△14	△20
基礎化学品	△126	△189	△139	△185	4	△160
石化	43	77	154	230	153	195
フィルム・シート	△22	△33	12	5	38	△5
その他	△13	6	△42	△55	△61	△55
合計	25	43	151	250	207	250

営業損益推移(グラフ)

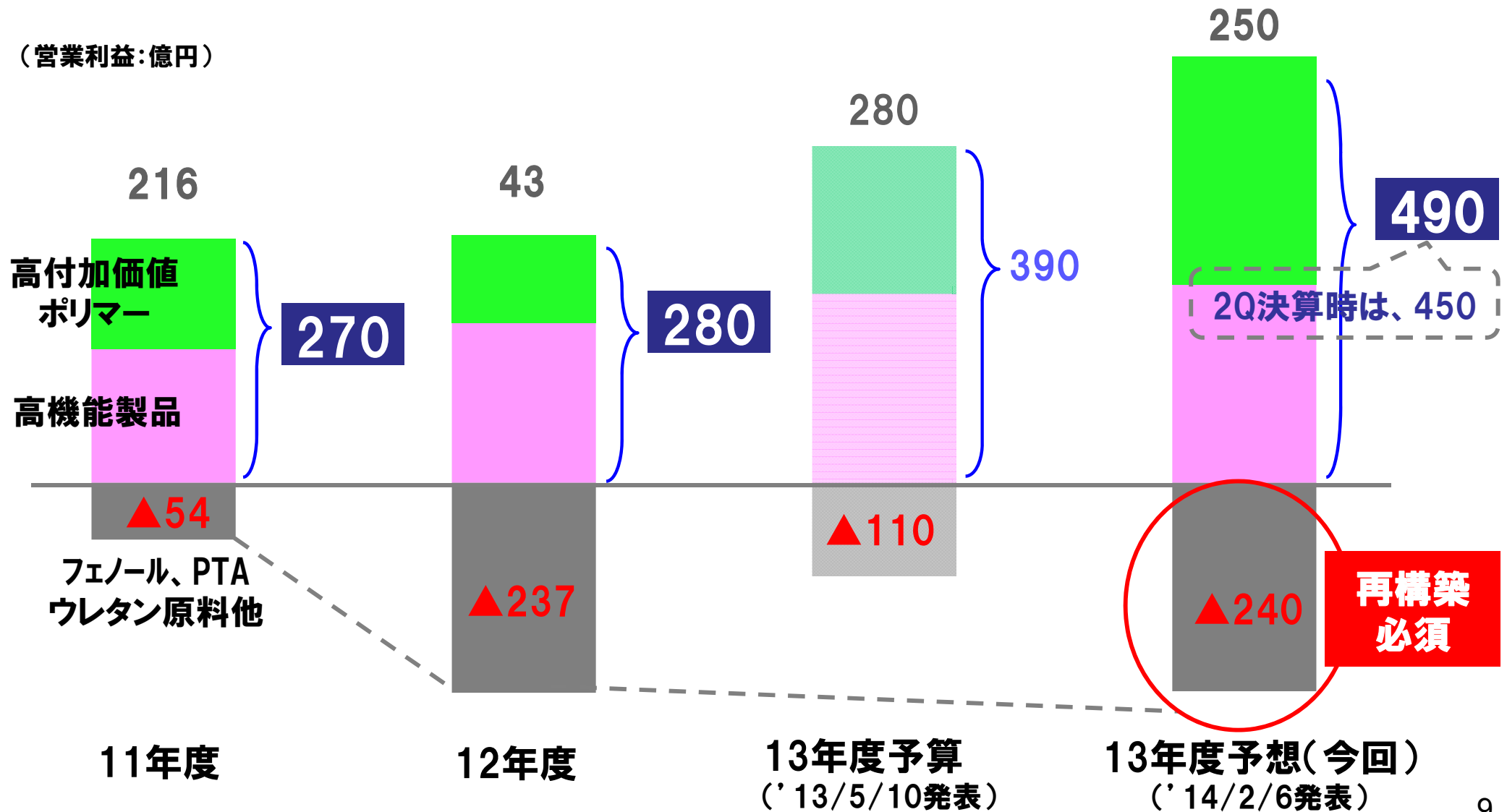


1. 2013年度3Q決算と見通し
2. 大型市況製品の再構築策
3. V字回復に向けて
4. さいごに

ポートフォリオの現状と課題

高機能製品、高付加価値ポリマーは順調に拡大
フェノール、PTA、ウレタン原料の再構築が必須

(営業利益:億円)



① **ウレタン事業**

② **フェノール事業**

③ **高純度テレフタル酸(PTA)事業**

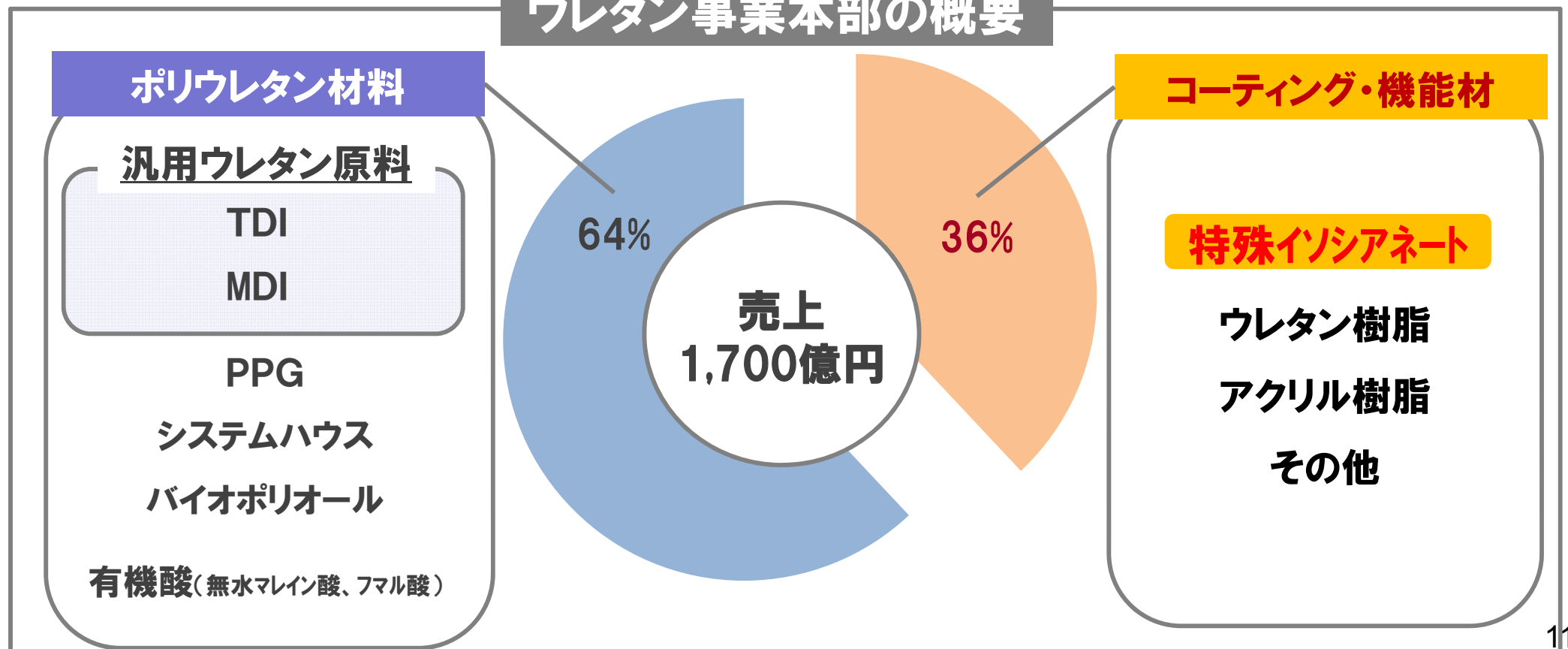
④ **再構築のまとめ**

①-1) ウレタン事業再構築の考え方

方針

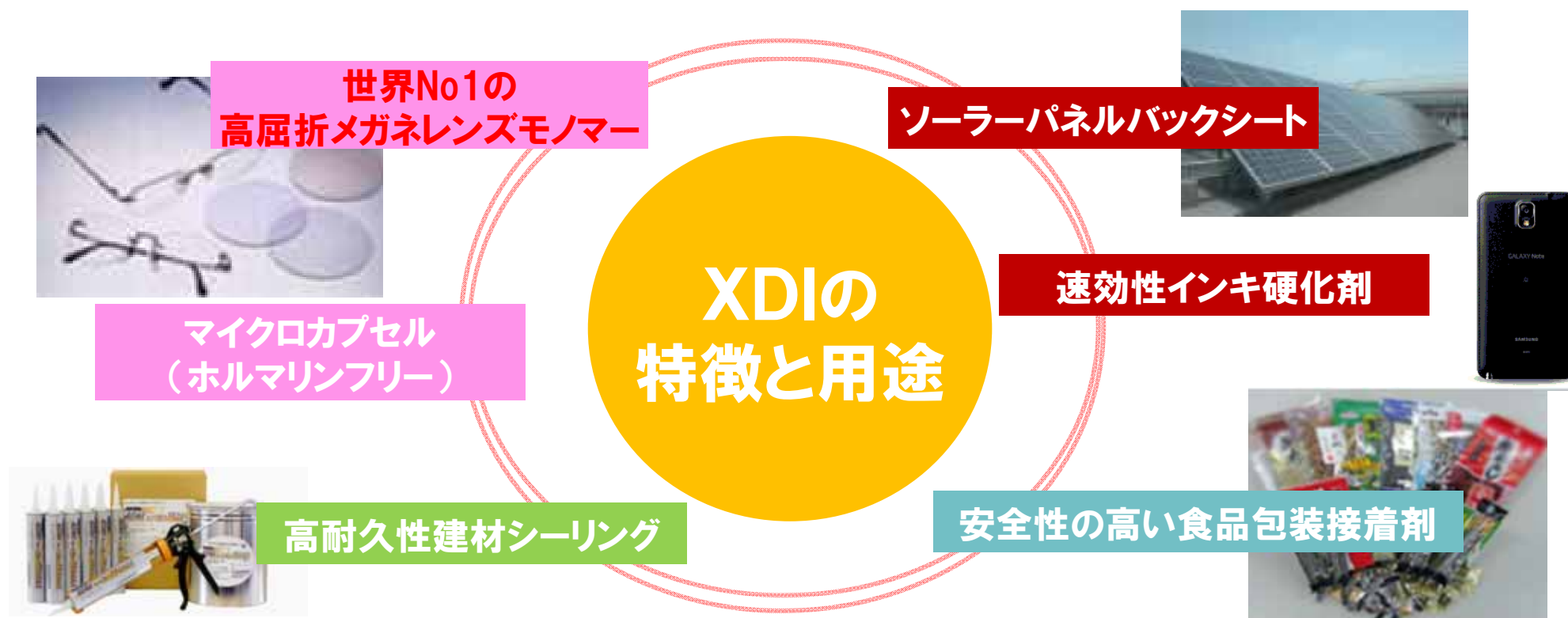
- 特徴ある特殊イソシアネートで、コーティング・機能材事業の更なる強化・拡大
- 汎用ウレタン原料は、競争力劣位のプラントを停止し、競争力ある設備で最適生産体制を確立。

ウレタン事業本部の概要



①-2) 特殊イソシアネートの強化

コーティング・機能材、メガネレンズモノマーの更なる拡大のため、
世界オンリーワンの特殊イソシアネートXDI大型プラントを新設
 (大牟田工場、5千t、15年10月稼働予定)



XDI大型設備の新設で、コーティング・機能材/メガネレンズモノマーの競争力強化と更なる拡大

①-3) 汎用ウレタン原料の再構築

環境 (TDI)

- ・中国中心のアジア新增設による需給バランス悪化で市況ダウン
- ・大牟田TDIは競争力あり、鹿島TDIは競争力劣位

環境 (MDI)

- ・堅調な需要伸長も、中国中心のアジア新增設で、小幅な市況悪化
- ・韓国MDIは競争力あり、大牟田MDIは小規模で競争力劣位

競争力ある設備を残し、競争力劣位のプラントは停止

再構築

- 1) **鹿島: TDI含む全プラント停止、工場閉鎖(16年12月末日途)**
TDI(11.7万t)・・・他社からの調達等により、既存顧客への安定供給を図る
特殊イソシアネート群(2,400t)・・・大牟田工場で新設大型化
有機酸(無水マレイン酸3.2万t、フマル酸1.5万t)・・・停止に合わせ事業終了
- 2) **大牟田: MDIプラント停止(6万t、16年12月末日途)**

※停止プラントの全従業員について雇用確保

①-4) ウレタン事業 再構築のまとめ

鹿島

工場閉鎖

(16年12月末目途)

TDI

有機酸

特殊イソシアネート

大牟田

MDI停止

(16年12月末目途)

TDI

特殊イソシアネート

XDI大型設備
(15年10月)

韓国

MDI

インド

バイオポリオール
(15年1月)

中東プロジェクト(検討中)

TDI

MDI

コーティング・機能材、
メガネレンズモノマーの
強化へ

- ・汎用ウレタン原料の最適生産体制を確立し、競争力あるプラントで勝ち残る
- ・圧倒的競争力のある中東での展開、他社との提携も視野に更なる強化

①-5) XDI メガネレンズモノマー拡大への貢献

世界No1の高屈折メガネレンズモノマーの拡大



高齢化

新興国の
購買力向上

より快適な
メガネニーズ



薄くて軽い

クリアな視界

割れにくく安全

優れた耐久性

Material
Only **1**

世界初チオール-XDI技術を用いたレンズ材料

Patent
Over **250**

グローバルに強固な
特許網を構築

Global
45%

高いグローバルシェア

Marketing
Branding

レンズメーカーとの
戦略的連携

高まる高屈折レンズのニーズ・需要に対応するため、
当社独自の製品で競争力あるXDI大型プラントを新設

再構築事業

① **ウレタン事業**

② **フェノール事業**

③ **高純度テレフタル酸(PTA)事業**

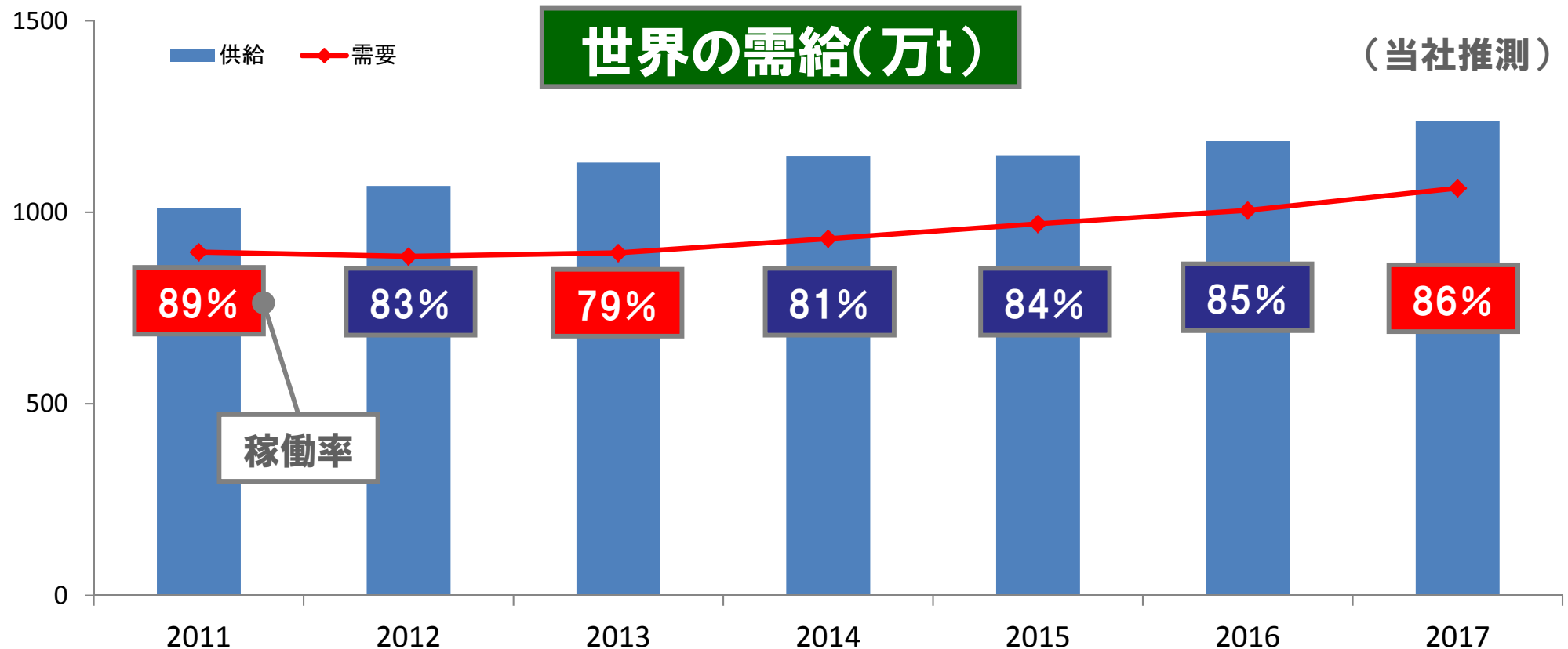
④ **再構築のまとめ**

②-1) フェノール事業 再構築の考え方

【フェノール事業収益悪化の背景】

- 中国での新規参入・増設による供給過剰
- 需要低迷、原料ベンゼンの高騰

⇒ **フェノール、BPA共にスプレッドが大幅に悪化**



新規参入は落ち着き、既存メーカーの誘導品とセットの増設が中心となり、世界需給は16～17年にかけて改善に向かう

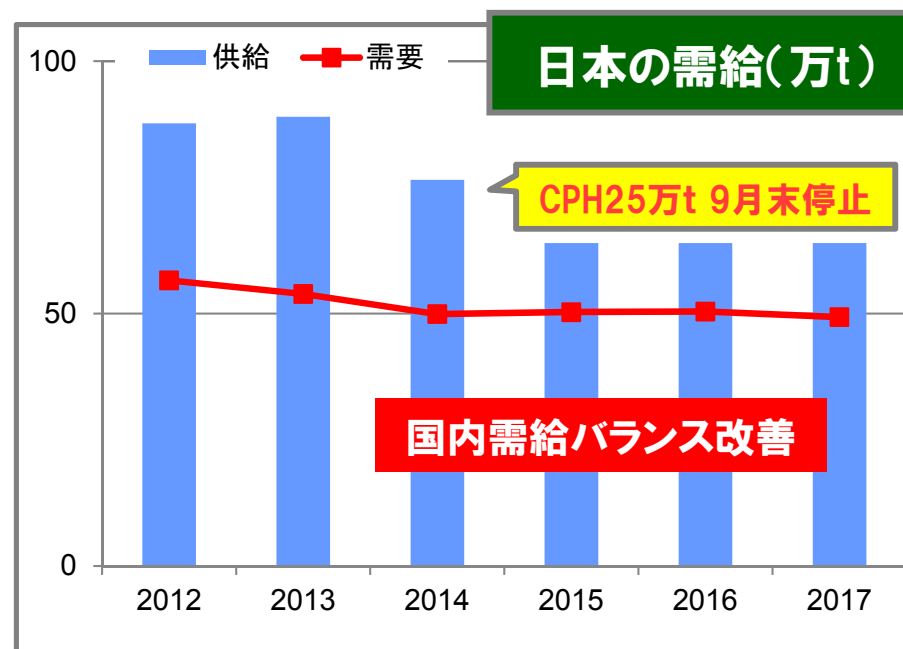
②-2) フェノール事業の再構築(日本)

環境

- ・フェノール国内需給は30万tの供給過剰
 - ・中国向け輸出は大幅赤字(AD課税6%、高い輸送コスト)
- ⇒地産地消体制の確立が必要

再構築

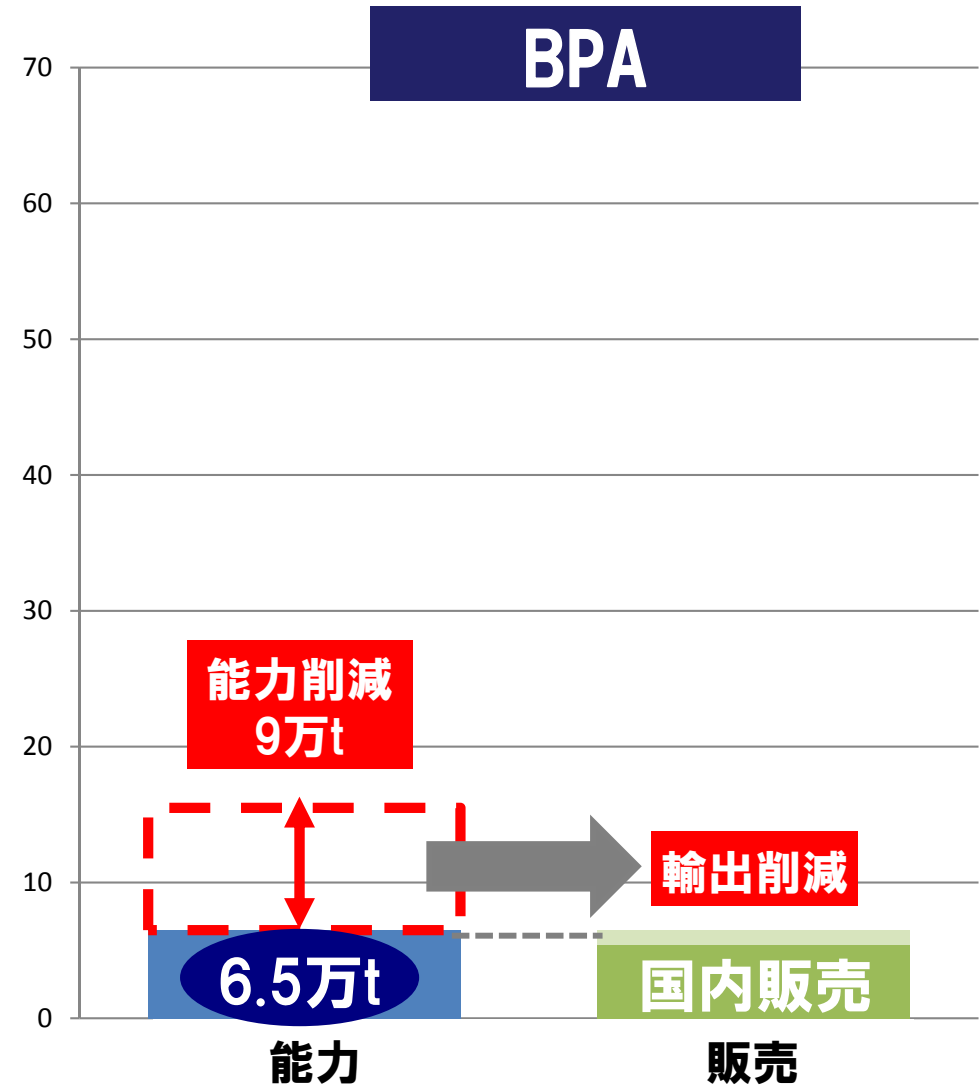
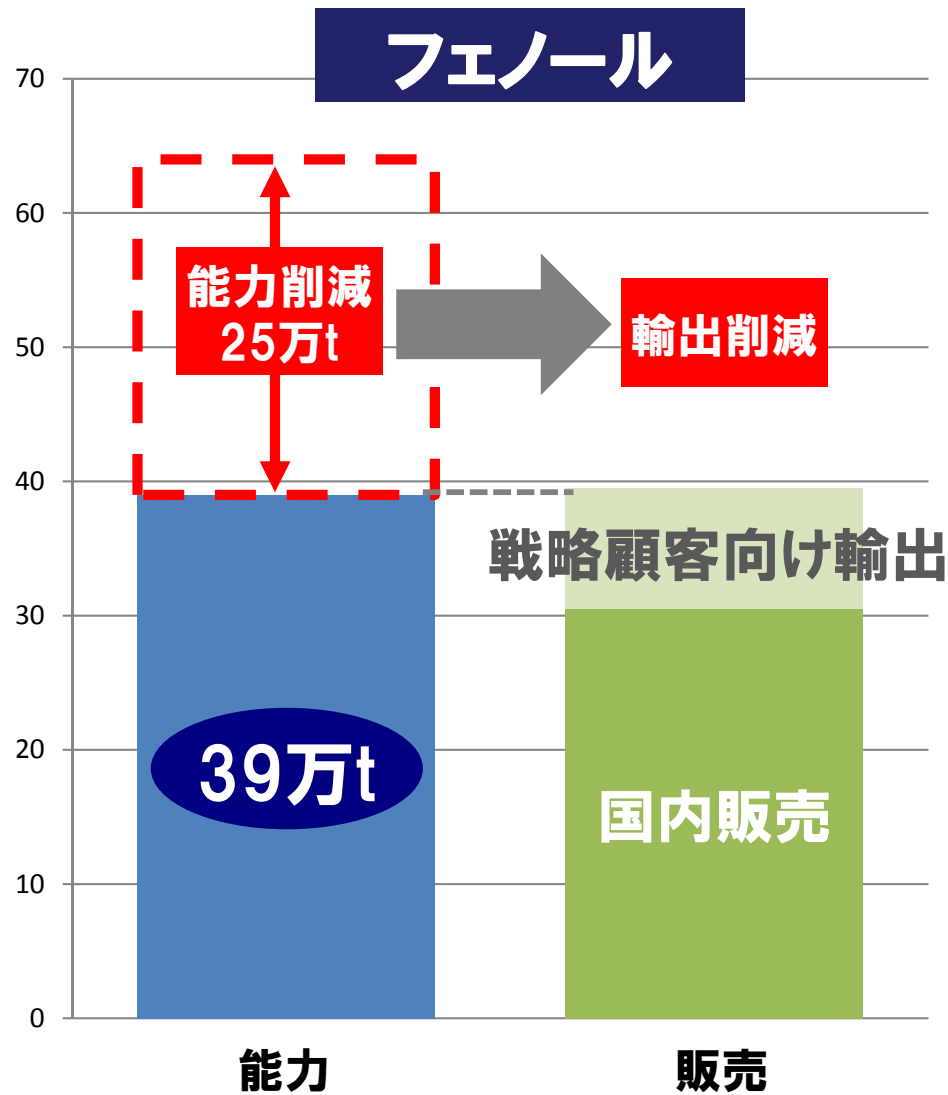
- 1) 市原BPA停止
(9万t、14年3月末)
- 2) 千葉フェノール(CPH)停止
(25万t、14年9月末)
- 3) 用役等コストダウン



- 4) 成長する中国市場は、競争力ある中国プラントを活用

地産地消体制の確立で、国内黒字化に目途

②-3) 再構築後の国内体制



- ・フェノール、BPA共に輸出を削減し、地産地消体制を確立
- ・輸出は、長期契約を締結している戦略顧客向けに限定して実施

環境

- ・ASEAN地区でフェノールメーカーは2社のみ
 - ・高い用役コスト(電力、スチームなど)
 - ・需要低迷のためBPA低稼働継続見込み
- ⇒用役の大幅な競争力強化と、地産地消体制の確立が必要

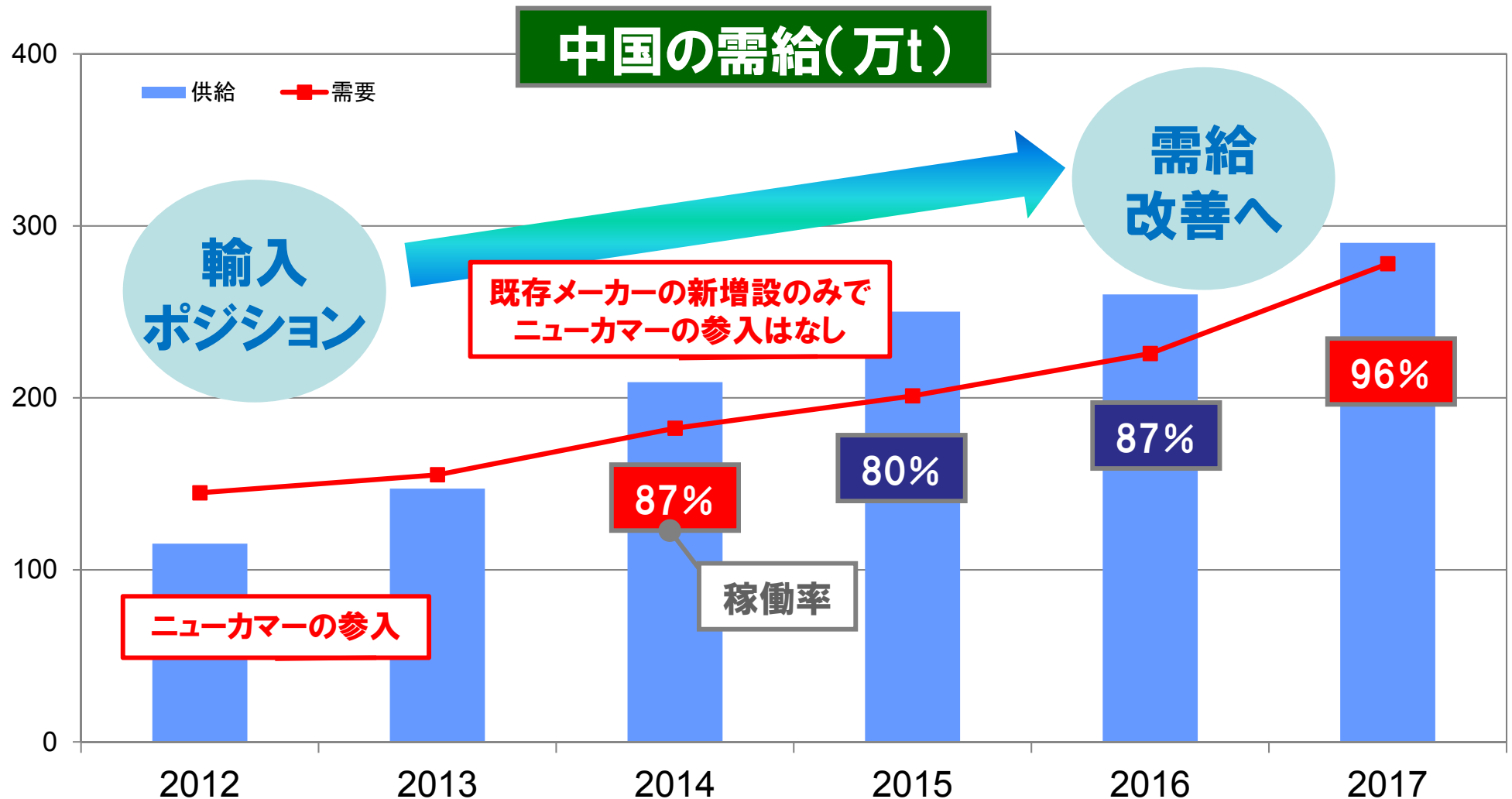
再構築

- 1) 徹底的コストダウン
 - ・石炭系の安価用役/電力への切替(新規用役パートナーとの契約)
 - ・原料安価調達(新規サプライヤーとの契約締結)
- 2) BPA1基休止(7万t)
- 3) 全量ASEAN域内での販売体制の確立(中国向け輸出ゼロ)
- 4) 他社との提携を検討中

②-5) フェノール事業の再構築(中国)

環境

- ・直近の中国フェノール需給バランスは余剰が見込まれるが、誘導品プラントの立ち上り等により、**16～17年にかけて改善する見込み**
- ・中国国内スプレッドは、関税5.5%、輸送コスト分等が輸入品より優位

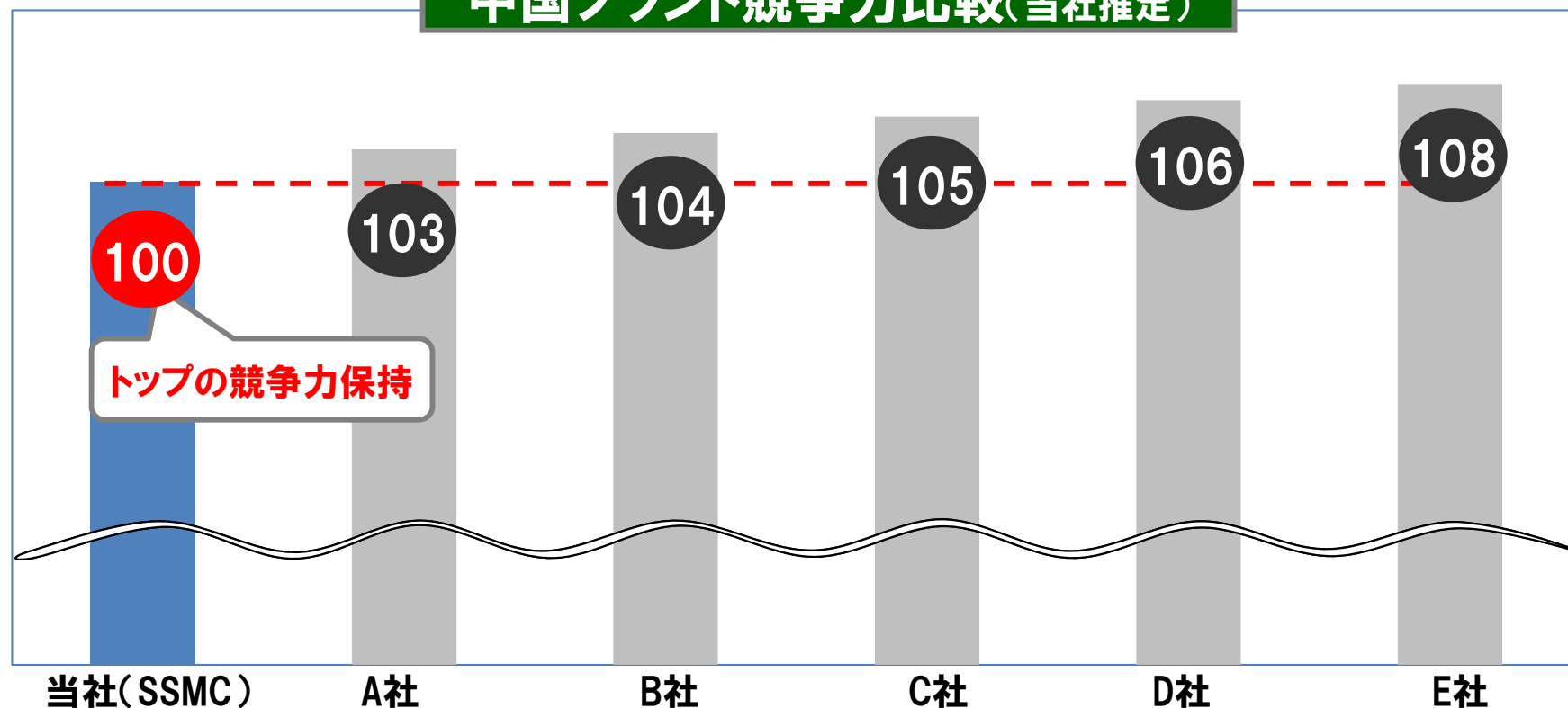


②-6) フェノール事業の再構築(中国)

- Sinopecと合併で、**成長する中国市場に拠点確保**(25万t、14年5月稼働)
- 用役原単位に優れた**最新の当社プロセスを採用**(競合比:25%用役原単位優位)
- アジア最大のSinopecとの提携により**安価な用役と競争力ある原料を確保**
- Sinopecの中国全土での**強力な販売網**

中国プラントのスムーズな立ち上げで、直ちに黒字化の見込み

中国プラント競争力比較(当社推定)



成長する中国市場で競争力トップのメーカー

②-7) フェノール事業 再構築のまとめ

日本	シンガポール (優遇税制、FTAメリット)	中国 (関税メリット)
市原BPA停止 (9万t、14年3月末)	BPA1基休止 (7万t)	用役原単位に優れた 最新技術のプロセス
千葉フェノール停止 (25万t、14年9月末)	徹底的なコストダウン (用役、原料)	Sinopecとの提携による 安価な用役と 競争力ある原料の確保
中国向け輸出ゼロへ 国内優良顧客を中心に長期安定販売		Sinopecの巨大な販売網 当社優良顧客への安定販売
最適生産体制で 勝ち残り	徹底的コストダウンで 収益改善、域内勝ち残り	域内トップの競争力で 中国市場獲得

再構築事業

① ウレタン事業

② フェノール事業

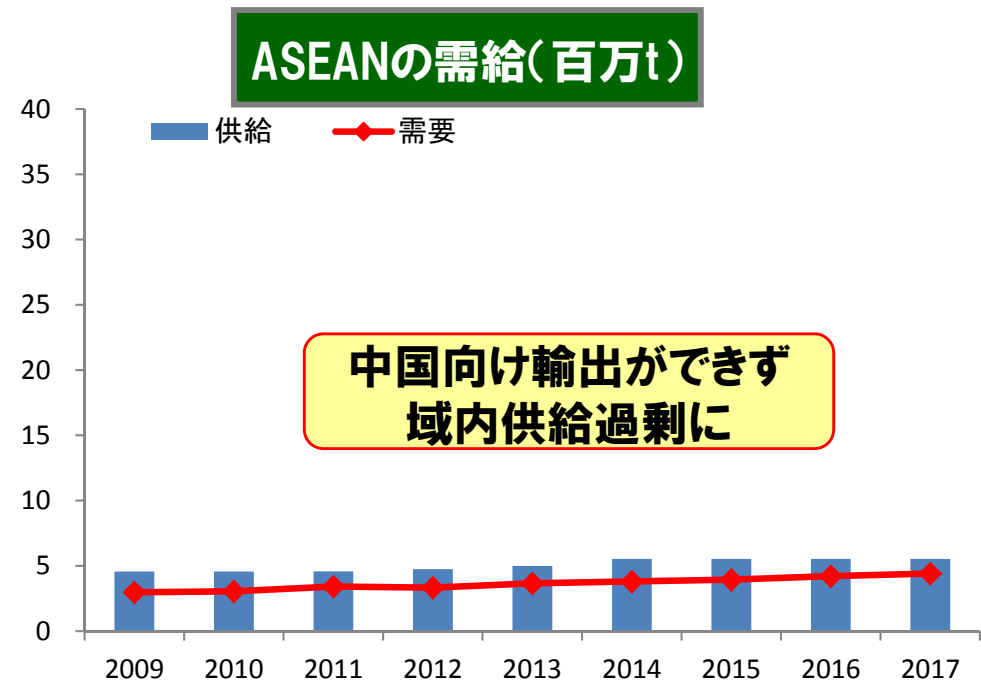
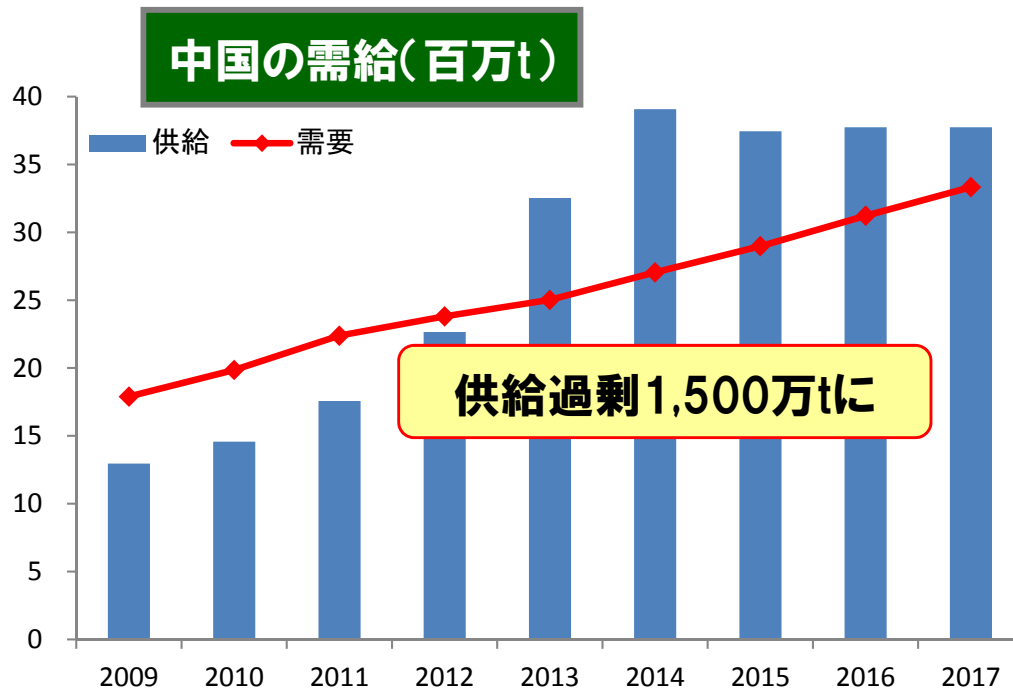
③ 高純度テレフタル酸(PTA)事業

④ 再構築のまとめ

③-1) PTA事業の再構築

環境

- 中国での新增設により、13年以降大幅余剰が継続(供給過剰1,500万t)
- 供給過剰解消は当面期待できず



再構築

- 1) インドネシアAMI全株式をBP社に売却し事業撤退(54万t、14年3月末)
- 2) タイSMPCは、合理化施策で世界トップレベルの競争力

③-2) AMI社株式のBP社への譲渡について

【会社概要】

社名 : P.T. Amoco Mitsui PTA Indonesia (AMI)
沿革 : 1995年設立、1997年9月営業運転開始
資本構成 : BP(50%)、三井化学(45%)、三井物産(5%)
譲渡時期 : **14年3月末予定**
売上規模 : **530 Million US\$(2012年)**

【経緯】

- 2012年から、BP社とAMIの事業の将来について検討開始
- ①業績変動幅を縮小させ、②ポートフォリオ変革を優先したい
当社と、インドネシアPTA事業の強化に強い意志を有するBP社との間で、AMIの事業方針に相違が生じてきたため、2013年からAMI株売却について検討、交渉を進め、12月に全株の譲渡で合意に至った。

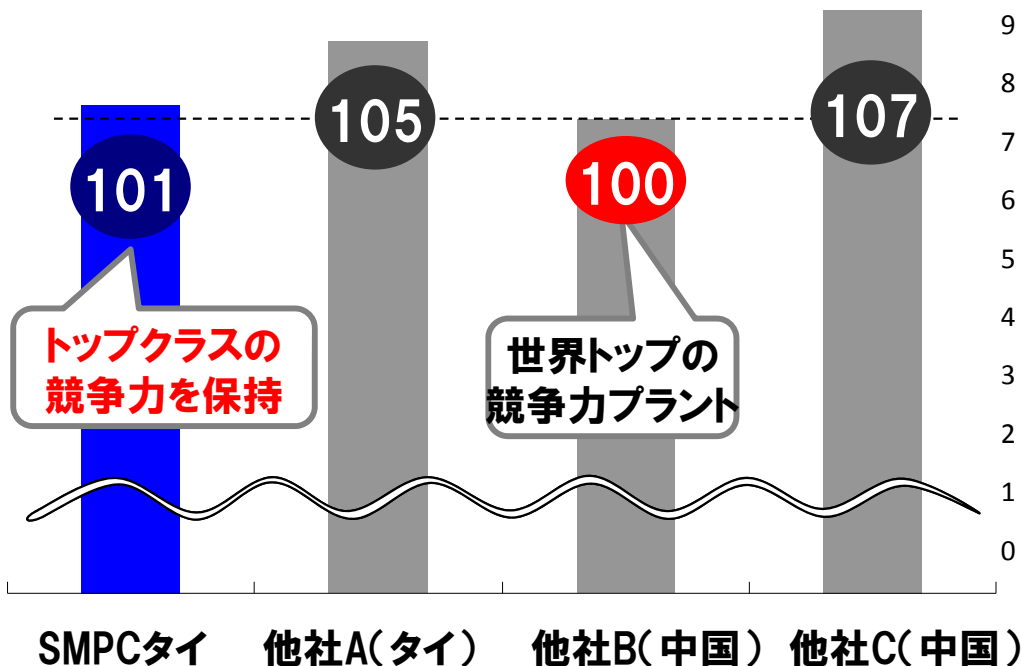
**持分会社であるため、営業利益への影響はないが、
税前利益の業績変動幅が縮小**

③-3) PTA事業の再構築(タイ)

環境

- ・中国向け輸出ができず、アジア全域で余剰バランスに
- ・需給GAP解消は当面期待できない

PTAプラント競争力比較(当社推定)



ASEANの需給(百万t)



再構築

- 1) 酢酸原単位などの合理化の進捗で、**世界トップクラスの競争力**
- 2) **中国向け輸出停止(1プラント停止中)**し、**他地域への販売強化**

③-4) PTA事業 再構築のまとめ

インドネシア

PTA
(AMI社)
54万t

PET
(PNR社)
8万t

AMI売上:530MUS\$

当社保有のAMI社
全株式(45%)を
BP社に譲渡

インドネシアPTA事業
から撤退

タイ

PTA
(SMPC社)
144万t

PET
(TPRC社)
10万t

中国向け輸出停止
(1プラント停止中)

徹底的コストダウンで
世界トップクラスの
競争力保持

競争力ある原料の確保
(ニソンプロジェクト)

誘導品PETと連携した地産地消体制で生き残る
原料から誘導品までの一貫アライアンスの推進

日本

岩国
PTA
40万t

PET
14.5万t

国内唯一の
PTA・PETボトル樹脂
一貫メーカー※

※自社単独

徹底的コストダウン

再構築事業

① **ウレタン事業**

② **フェノール事業**

③ **高純度テレフタル酸(PTA)事業**

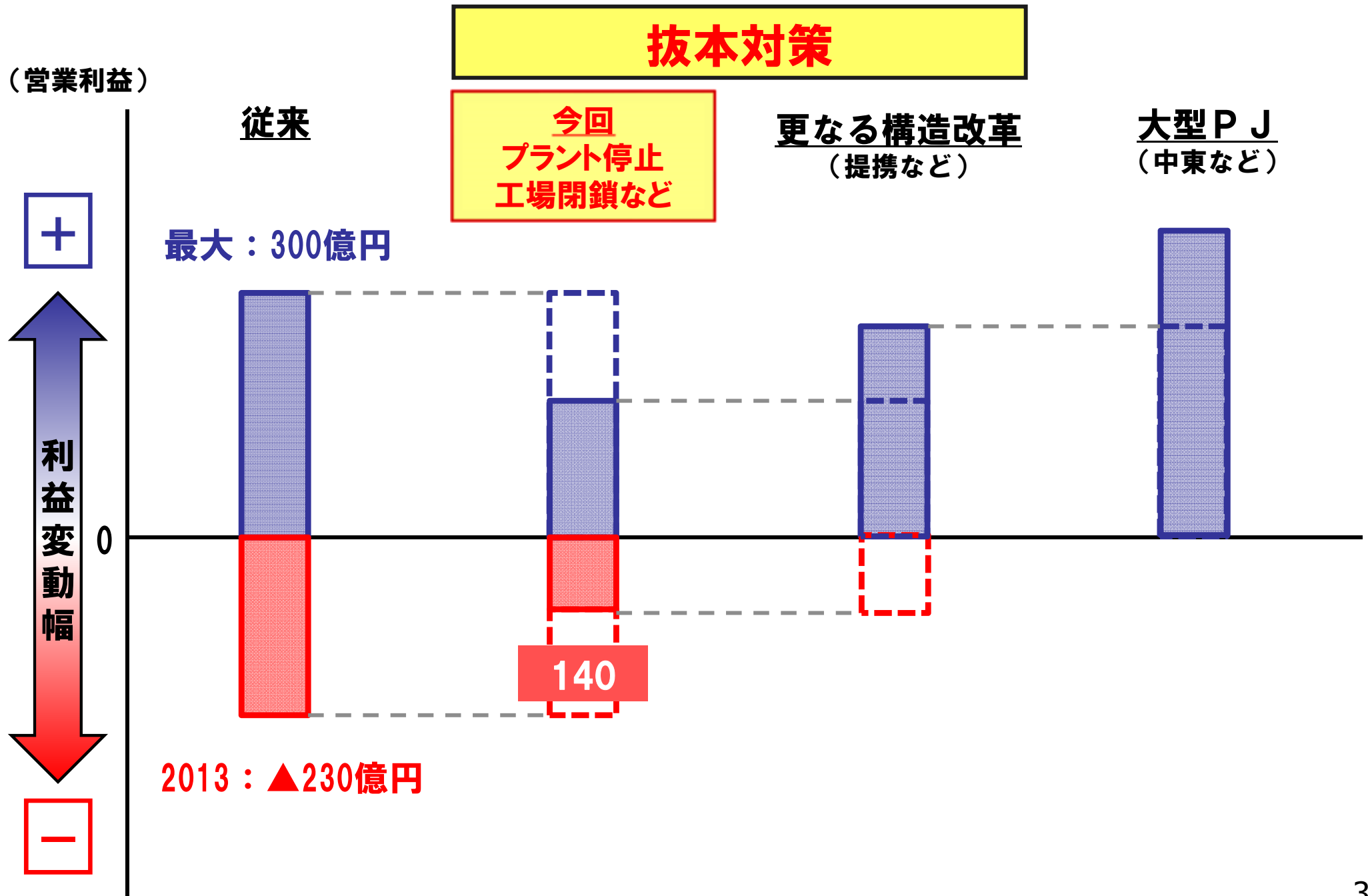
④ **再構築のまとめ**

④-1) 再構築のまとめ

“大型市況製品の再構築により 早期の黒字化を目指す”

- 今回の再構築策により、**3事業で230億円の赤字のうち、
市況の改善に頼らず140億円の営業利益を大幅改善**
- 更なる大型提携、コストダウンを実行し、
早期黒字化の実現に全力を挙げる

④-2) 再構築策の利益変動幅イメージ



- 1. 2013年度3Q決算と見通し**
- 2. 大型市況製品の再構築策**
- 3. V字回復に向けて**
- 4. さいごに**

3. V字回復に向けて

“V字回復に向けて目指すこと”

- 1) 早期に**当期純利益の黒字化**を目指す
- 2) **14年度期末に復配**を目指す

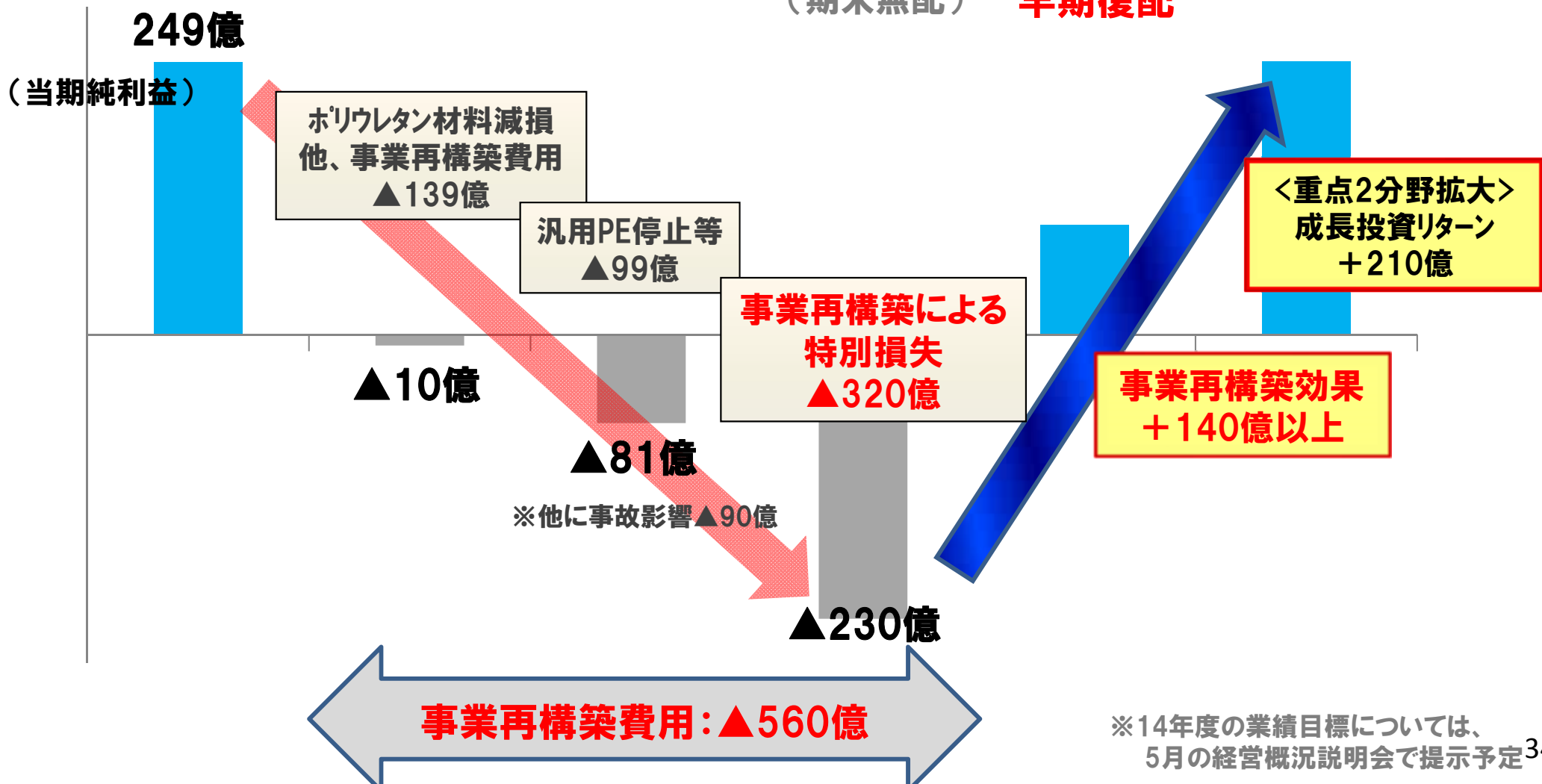
“中期に目指すこと”

- 3) **NDER=1.2への早期到達**(※NDER:net D/Eレシオ)
- 4) **ROS=5%、長期には7%を目指す**

当期純利益の改善イメージ

早期に当期純利益の黒字化と14年度期末の復配を目指す

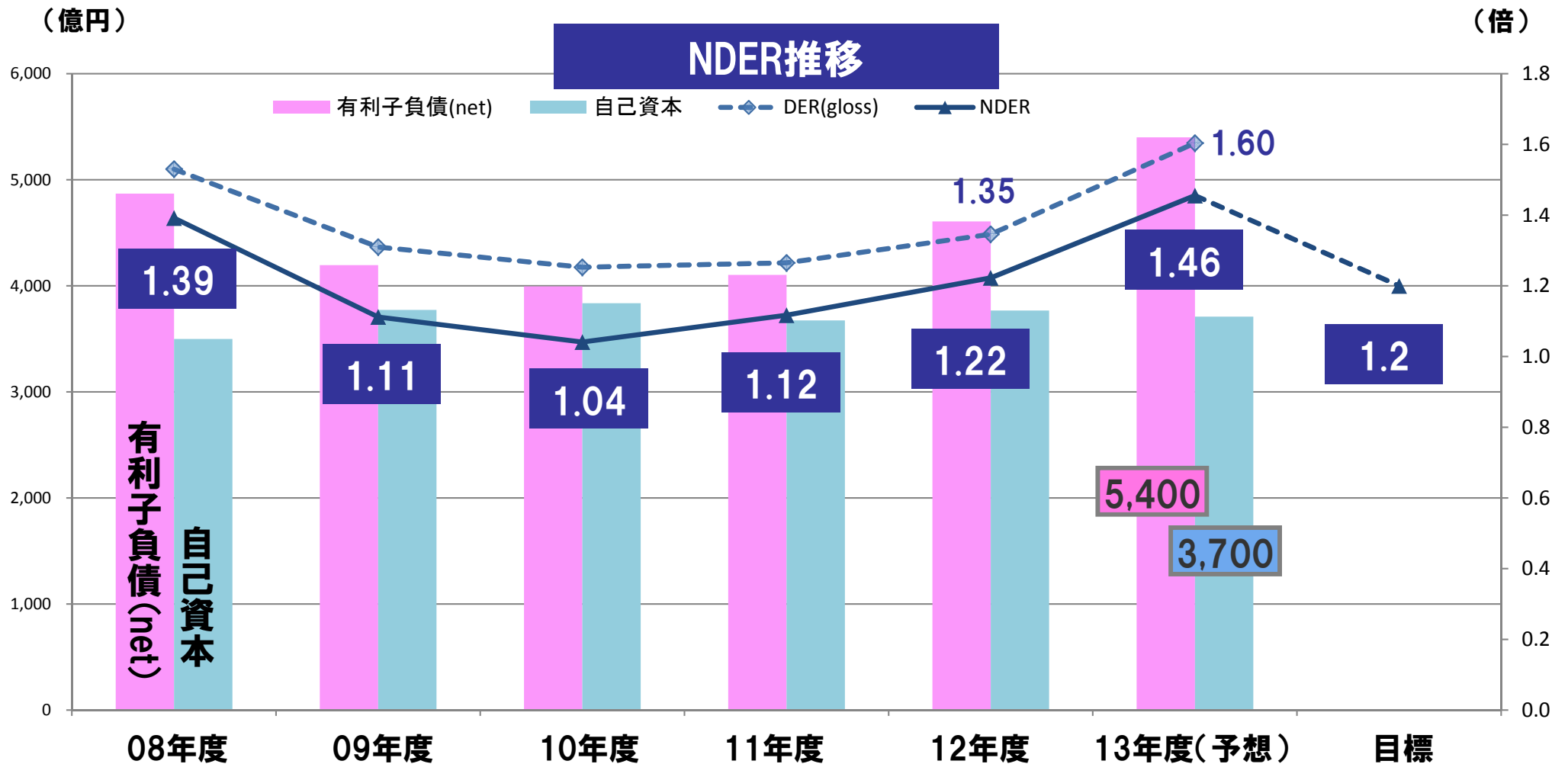
10年度 配当6円	11年度 配当6円	12年度 配当6円	13年度 配当3円 (期末無配)	14年度 早期復配	15年度 安定配当へ
--------------	--------------	--------------	------------------------	---------------------	---------------



※14年度の業績目標については、5月の経営概況説明会で提示予定³⁴

財務状況

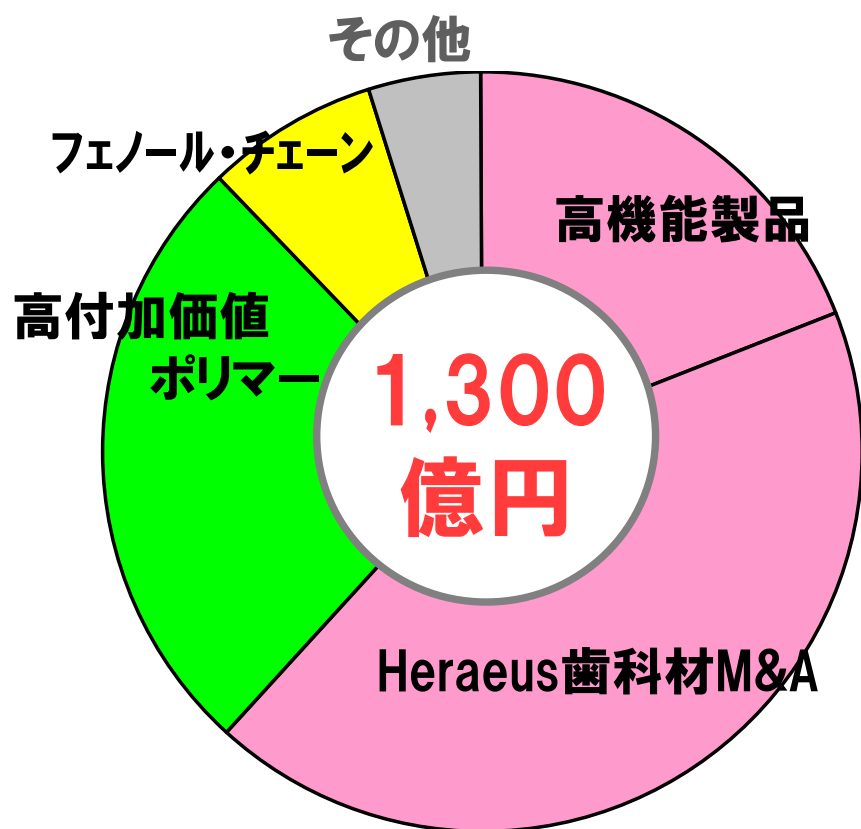
- ・再構築の断行により、13年度末のNDERは1.46に
- ・営業利益の大幅アップとともに、
資産売却、事業売却も含め、NDER = 1.2へ改善を目指す



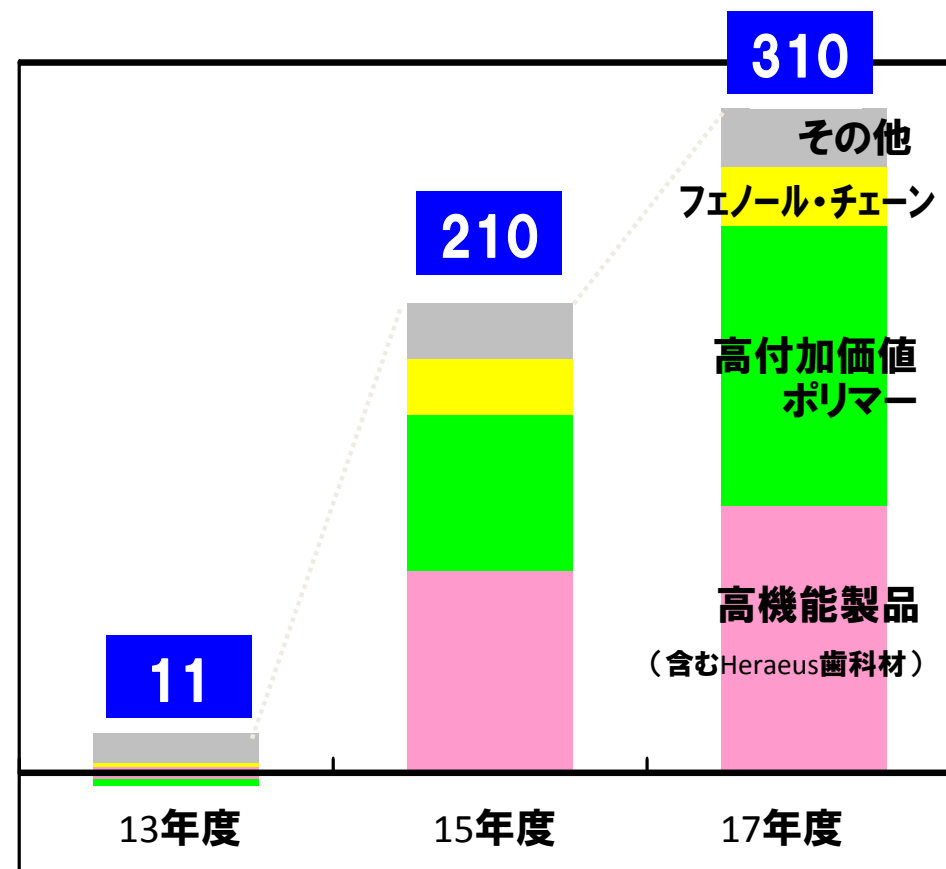
注) 13年度退職給付債務オンバランス化後の期末NDER予想: 1.56

高機能製品と高付加価値ポリマーに**成長投資の9割近くを投入**

11-13年度成長投資



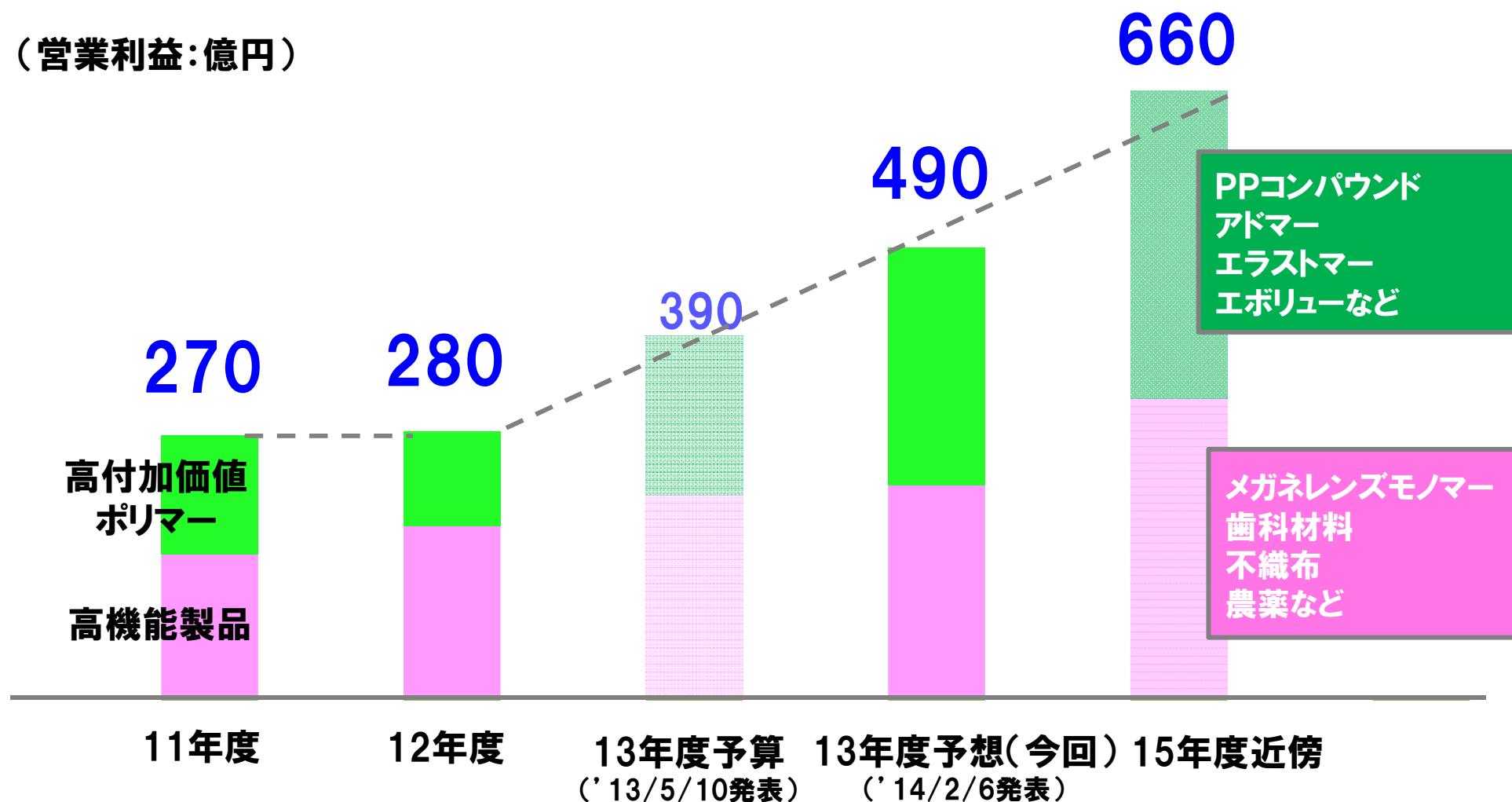
投資効果・増分利益（約50件）



11中計期間中の成長投資の効果は、**2014年度以降に拡大**

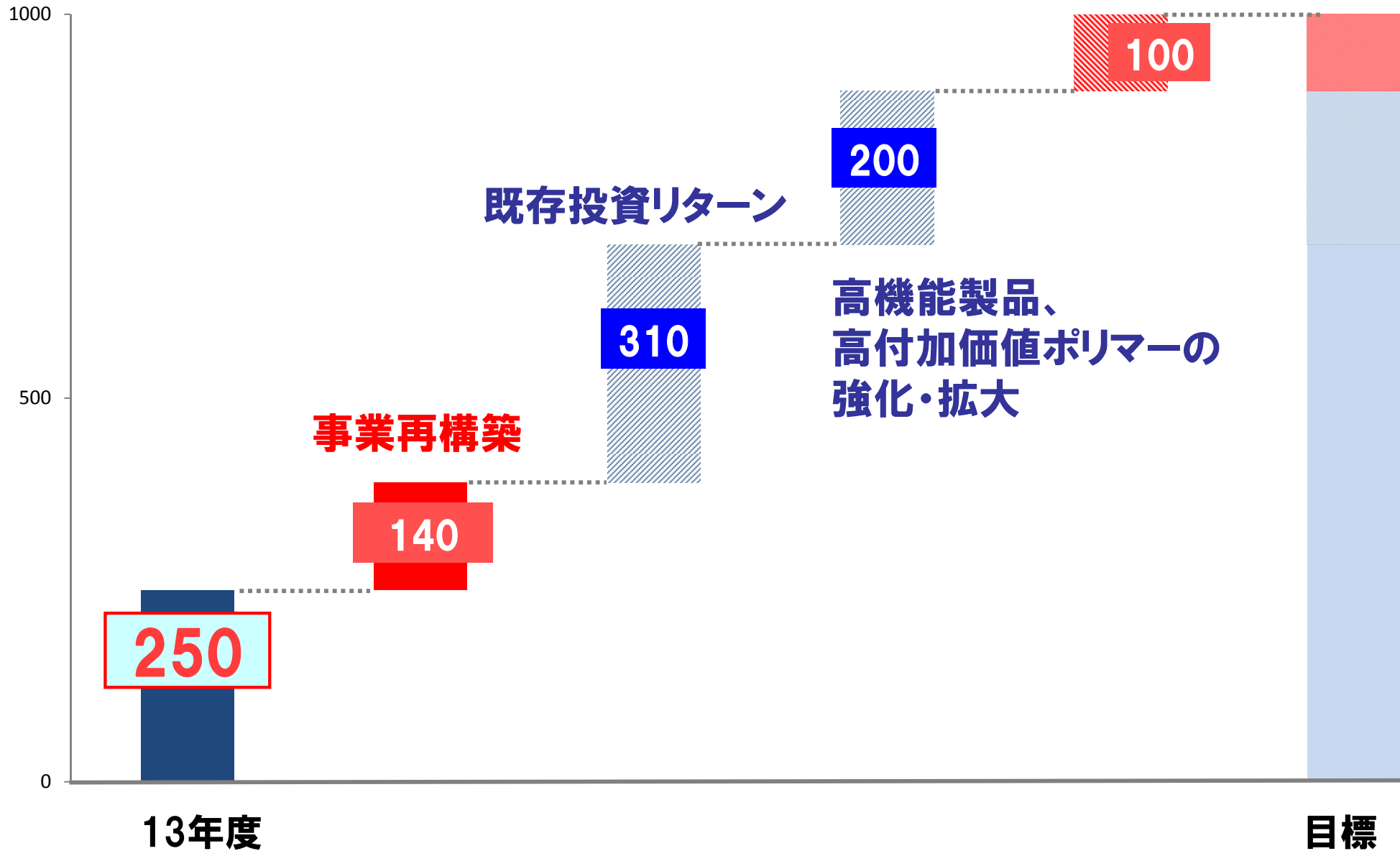
高機能製品、高付加価値ポリマーは順調に拡大 更に拡大を加速させる

(営業利益:億円)



目標への道のり

(営業利益: 億円)



- 1. 2013年度3Q決算と見通し**
- 2. 大型市況製品の再構築策**
- 3. V字回復に向けて**
- 4. さいごに**

“V字回復に向けて”

- ◆痛みを伴う再構築を着実に実行し成長路線へ
- ◆ポートフォリオ変革の完遂
- ◆早期の黒字化、安定配当
- ◆財務体質の改善

に全力を尽くす

An aerial photograph of a mountain peak with a winding road, overlaid with text. The sky is filled with soft, pinkish clouds, and the mountain's surface is a mix of dark and light tones, suggesting a mix of rock and snow or ice. The text is centered and written in a large, white, serif font.

Challenge

Diversity

One Team

(完)

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。